

教育課程

人文科学研究科 日本文化専攻（修士課程）

1. 教育課程編成の考え方

○カリキュラムポリシー

〈人文科学研究科〉

修士論文を作成するための知識と技術を教授する演習科目と、各専攻の教育目標を達成するための多様な講義科目や実習科目を配置する。

〈日本文化専攻〉

1. 日本思想、日本芸術、日本民俗・社会、日本文学の四領域にまたがる日本文化の形成過程を学ぶために「通論」を配置する。
2. 個々の領域における専門的な研究を深めるために「特論」を配置する。
3. 修士論文を作成するための知識と技術を教授するために「日本文化演習」を配置する。

日本の文化は、様々な文献資料によって把握し理解することができる「表層文化」と、文献だけでは把握することができない「基層文化」によって構成されている。思想、芸術、文学といった目に見える形で表現される表層文化とともに、社会における民俗という基層文化を解明することは、「日本文化」というコインの表裏を眺め全体像を明らかにするために必要不可欠のものである。

女性の社会進出が進んだ現在、女子大学を基礎とする大学院としては、「日本の文化と女性の関わり・在り方」等についても意識化して研究を組織したい。

日本文化専攻の学生は、1年次に通論科目を履修し、日本文化研究の全体像を把握するとともに、専攻分野に応じて研究指導教員が担当する演習（ゼミナール）に所属し、指導教員により早い時期から修士論文の作成に向けた指導を受ける。

①必修科目

【通論科目】

日本文化専攻は、[日本思想][日本芸術][日本民俗・社会][日本文学]の4領域が柱になる専攻分野として設定している。この4領域について、日本文化を研究するために必要な総合的で多角的な識見を涵養するために、必修科目として、5つの通論科目を開講する。

【日本文化演習】

日本文化専攻の学生は、専攻の柱となる[日本思想][日本芸術][日本民俗・社会][日本文学]の4領域のいずれか一つ、又は複数を履修する。

②選択科目

柱になる領域に関する「日本思想特論」「日本思想史特論」「日本芸術特論」「日本美術史特論」「民俗学特論」「女性史特論」「日本社会史特論」「日本文学特論」「日本文学史特論」に加え、日本文化を語る際に切っても切り離せない学問領域に関わる科目として「東洋思想特論」「日本芸能特論」「文化人類学特論」「比較文化特論」を開講する。特論は、特殊な領域のテーマに関し、専門的研究の方法を修得するとともに、その学識を深めるために設けるもので、講義の形式で実施される。各学生の専攻分野に関する科目だけでなく、隣接する分野の科目を履修することで、日本文化に関する総合的な理解を深めるとともに、各領域の研究者の視点や研究方法を学ぶ。

2. 履修指導及び研究指導の方法

講義科目の履修は、学習効果の増大を図るため、1学年度を春学期・秋学期に分けることにより、第1から第4セメスターにわたるセメスター制度とし、研究指導と併行して行う日本文化演習については、通年（2セメスター連続）で2年間にわたり履修する。

日本文化専攻の学生の学修は、演習科目を中心に展開する。第1セメスターから日本文化演習を履修す

ることで、これらを担当する研究指導教員の下で、修士論文作成に向けた準備を進める。

第1 Semesterの履修登録時に修士論文指導教員の申請を行い、研究科委員会の議を経て決定する。学生は、第1から第4 Semesterまで修士論文指導教員の担当する日本文化演習を履修する。また、研究テーマに隣接する分野の演習の履修も可とする。

学生が研究領域を変更しようとする場合は、研究科委員会の審査及びその議を経て、第3 Semesterの履修登録時に指導教授を変更することができることとする。

第1・第2 Semesterでは、研究方法や論文の作成手順等の指導を受け、第3 Semesterに中間報告会を開催し、そこでの指摘を踏まえて論文の題目を決定する。第4 Semesterには、修士課程における研究成果を修士論文として提出する。

講義科目の履修についても、演習担当教員の助言の下、自らの専攻領域に関する科目を中心に系統的な履修を行う。

なお、学芸員や司書といった資格の取得や日本文化に関する学部段階レベルの知識を必要に応じて補わせるため、学生が学部専門科目を履修できるよう配慮する。ただし、修得した単位は、学部の単位として認め、修士課程の修了要件としては認めない。

○研究指導（修士論文作成指導）スケジュール

年次	Semester	事項	研究指導関連科目の履修
1年次	第1 Semester	[4月] 指導教員決定	日本文化演習
	第2 Semester		
2年次	第3 Semester	[4月] 中間報告会	
	第4 Semester	[1月] 修士論文提出	

3. 授業科目の履修

授業科目の名称		配当年次	単位数又は時間数		開講期	担当教員	備考
			必修	選択			
必修科目	日本思想通論	1	2		春学期	三谷 博	半期2単位、10単位必修。
	日本芸術通論	1	2		秋学期	矢島 新	
	民俗学通論	1	2		春学期	塩月 亮子	
	日本社会史通論	1	2		春学期	泉 雅博	
	日本文学通論	1	2		秋学期	植田 恭代	
	日本文化演習	1・2	4		通年	石井 正己 泉 雅博 三谷 博 矢島 新	通年4単位、8単位必修。 16単位まで修了要件として認める。ただし、1年に8単位を超えて履修することができない。
選択科目	日本思想特論	1・2		2	秋学期	三谷 博	半期2単位、12単位以上選択（必要を超えて修得する日本文化演習を含む）。日本文学史特論は、開講期が異なれば、複数回履修することができる（修了要件単位として認める）。
	日本思想史特論	1・2		2	本年度休講		
	東洋思想特論	1・2		2	秋学期	岩本 憲司	
	日本芸術特論	1・2		2	春学期	矢島 新	
	日本美術史特論	1・2		2	本年度休講		
	日本芸能特論	1・2		2	春学期	表 きよし	
	民俗学特論	1・2		2	春学期	靄 理恵子	
	女性史特論	1・2		2	本年度休講		
	日本社会史特論	1・2		2	秋学期	泉 雅博	
	文化人類学特論	1・2		2	秋学期	渡邊 欣雄	
	日本文学特論	1・2		2	春学期	植田 恭代	
	日本文学史特論	1・2		2	本年度休講		
	比較文化特論	1・2		2	本年度休講		

修了要件

大学院に2年（2年以外の標準修業年限を定める研究科、専攻又は学生の履修上の区分にあっては、当該標準修業年限）以上在学し、30単位以上（内訳は下記のとおり）を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、本大学院の行う修士論文の審査及び試験に合格することとする。

日本文化専攻修了要件単位数内訳 必修科目18単位を含む30単位以上

人文科学研究科 臨床心理学専攻（修士課程）

1. 教育課程編成の考え方

○カリキュラムポリシー

〈人文科学研究科〉

修士論文を作成するための知識と技術を教授する演習科目と、各専攻の教育目標を達成するための多様な講義科目や実習科目を配置する。

〈臨床心理学専攻〉

1. 公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会が定めるカリキュラムに基づいた科目を配置する。
2. 心理臨床家としての資質と技術を身につけるために「実習」を配置する。
3. 修士論文を作成するための知識と技術を教授するために「臨床心理学演習」を配置する。

心理臨床家としての高度な専門的資質の養成には、臨床心理学の学部4年間の講義および演習・実習による学習成果をふまえ、さらに大学院において深化した専門的教育を必要不可欠としている。

①必修科目

臨床心理学専攻では、基本的に財団法人臨床心理士資格認定協会（以下「協会」という。）が定めるカリキュラムに基づき、臨床心理士の専門業務に対応する必修科目を開講する。

②選択科目

協会の定めるA～E群（臨床心理士受験資格には各群から2単位以上を修得する必要がある）のうち必要な科目を開講するが、この科目を配当するにあたっては、カウンセラーがライフサイクルの諸段階に適切に対応できるよう考慮した。特に臨床心理学専攻はスクールカウンセラーの養成を目的としていることから、臨床心理士資格認定協会の定める選択必修科目のうち「E群」にあたる科目（投映法特論、心理療法特論、学校臨床心理学特論、グループ・アプローチ特論、コミュニティ・アプローチ特論が定められている。）の充実を図り、学校・地域等の実際の現場で役立つ知識や理論を修得するものとする。さらに、障害者（児）心理学特論、老年心理学特論がそうである。また、近年みられる社会問題事例にも対応できるよう、犯罪心理学特論といった科目を配置した。

2. 履修指導及び研究指導の方法

臨床心理学専攻の教育課程は、主に本学の附属教育研究組織である心理教育相談所で実施される実習科目に重点を置いている。

第1・第2 Semester（1年次）の臨床心理基礎実習では、第3・第4 Semester（2年次）における臨床心理実習・臨床心理特別実習の前段階と位置づけ、臨床心理のインテーク及び面接技法などの実務に関する基礎的な知識、能力を身に付ける。

臨床心理基礎実習を経た後の臨床心理実習・臨床心理特別実習では、漸次、指導教員のスーパーヴィジョンの下で、心理教育相談所における臨床事例に直接接していく。臨床心理実習では、大学院学生全員参加の事例検討会の形式で担当事例について指導教員のスーパーヴィジョンを行う。臨床心理特別実習ではスーパーヴィジョンを個別に行い、事例担当者である学生の特性を踏まえた、よりきめの細かい指導を行う。集団と個人という異なる形式のスーパーヴィジョンを行うという指導方法は、事例の理解をより深め、面接の在り方を再検討するとともに、実習で得た知識を整理し、その技能を確かなものにすることに役立つ。

臨床心理基礎実習、臨床心理実習及び臨床心理特別実習はいずれも2単位必修とするので、学生は2年間の臨床体験を積むこととなる。また、これらの経験を修士論文の作成に活かし、臨床心理学的考察に深さと広がりをもたせる。さらに、教員の指導の下、精神病院、高齢者福祉施設、小・中学校等における課外実習に積極的に参加し、心理臨床家として総合的な能力を身につけることが望まれる。

また、臨床心理学専攻では、1年次は必修の講義・演習科目の履修を通じて基礎を固め、2年次に臨床心理演習を履修して修士論文の作成に向けた指導を受ける。1年次に特定分野の修士論文指導の基礎となる臨床心理学演習の開設を行わないのは、特定分野のみに偏った知識ではなく、できるだけ広い臨床心理学の領域を学んでいることがカウンセラーに求められるからである。さらに、2年次に履修する臨床心理実習、臨床心理特別実習についても、両科目を通じて実習を担当する全ての教員の指導を受けることとする。2年次に履修する臨床心理演習の指導教員である修士論文指導教員の選択は、第1セメスターの学修成果を基に、第2セメスターにおいて実施するオリエンテーションの後に学生各自に専攻領域を決めさせ、研究科委員会の議を経て決定する。

なお、学部段階レベルの知識を必要に応じて補うため、学部専門科目の履修が可能となるよう配慮する。ただし、修得した単位は、学部の単位として認め、修士課程の修了要件としては認めない。

○研究指導（修士論文作成指導）スケジュール

年次	セメスター	事項	研究指導関連科目の履修
1年次	第1セメスター		必修科目を中心に臨床心理学の諸分野を幅広く学ぶ。
	第2セメスター	[11月] オリエンテーション指導教員決定	
2年次	第3セメスター	[7月] 中間報告会	臨床心理学演習
	第4セメスター	[1月] 修士論文提出	

3. 授業科目の履修

授業科目の名称	配当年次	単位数又は時間数		開講期	担当教員	備考	
		必修	選択				
必修科目	臨床心理学特論	1	4	通年	中野 敬子	通年4単位、12単位必修。	
	臨床心理面接特論	1	4	通年	野島 一彦		
	臨床心理査定演習	1	4	通年	酒井 佳永		
	臨床心理基礎実習	1	2	通年	酒井 佳永 宮崎 圭子 山口 豊一	通年2単位、6単位必修。	
	臨床心理実習	2	2	通年	中野 敬子 野島 一彦 松崎くみ子		
	臨床心理特別実習	2	2	通年	酒井 佳永 中野 敬子 野島 一彦 松崎くみ子 宮崎 圭子 山口 豊一		
	臨床心理学演習	2	4	通年	中野 敬子 野島 一彦 松崎くみ子 宮岡 佳子 宮崎 圭子 山口 豊一	通年4単位必修。	
選択科目	A	心理統計法特論	1・2	2	春学期	宮崎 圭子	半期2単位、8単位以上選択。 臨床心理学研究法特論は、開講期が異なり、かつ、担当教員が異なれば、複数回履修することができる（修了要件単位として認める）。 ※臨床心理士受験資格については下記参照。
		臨床心理学研究法特論	1・2	2	春学期	松崎くみ子	
	B	発達心理学特論	1・2	2	春学期	松崎くみ子	
		学習心理学特論	1・2	2	春学期	山本 淳一	
	C	家族心理学特論	1・2	2	春学期	布柴 靖枝	
		犯罪心理学特論	1・2	2	春学期	村松 励	
		臨床心理関連行政論	1・2	2	春学期	山口 豊一	
	D	精神医学特論	1・2	2	春学期	宮岡 佳子	
		老年心理学特論	1・2	2	秋学期	宮森 孝史	
		障害者（児）心理学特論	1・2	2	秋学期	久田 信行	
	E	投映法特論	1・2	2	秋学期	酒井 佳永	
		心理療法特論	1・2	2	秋学期	宮崎 圭子	
学校臨床心理学特論		1・2	2	春学期	伊澤 成男		
	グループ・アプローチ特論	1・2	2	秋学期	伊澤 成男		

修了要件

大学院に2年（2年以外の標準修業年限を定める研究科、専攻又は学生の履修上の区分にあっては、当該標準修業年限）以上在学し、30単位以上（内訳は下記のとおり）を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、本大学院の行う修士論文の審査及び試験に合格することとする。

臨床心理学専攻修了要件単位数内訳 必修科目22単位を含む30単位以上

※臨床心理士を受験するためにはA～E群すべてから各2単位以上を修得する必要がある。

マネジメント研究科 マネジメント専攻（修士課程）

[平成27年度以降の入学者]

平成27年度から、従来の「企業・公共」と「生活・文化」の2領域区分を廃止し、大学院生の学ぶ分野の自由度を拡大するとともに、変化の激しい社会の要請に答えられるよう、①通論科目を拡充して、経営学、経済学をも包含する「マネジメント学」を設置する、②特論科目に複数科目を新設する、③授業内容がわかる講義科目名を変更するなど、カリキュラムを大幅な見直しを行った。

1. 教育課程編成の考え方

マネジメント研究科マネジメント専攻の教育課程では、実践的で総合的なマネジメント・マインドを十分に具え、多様な職業領域で指導的役割を果たし、そこで高度なマネジメント能力を実際に発揮することのできる人材を養成する。

講義形式で行われる科目は通論科目と特論科目に分けられる。通論科目は1年次必修で、特論科目は必要単位以上修得する必要がある。

演習科目はマネジメント演習である。研究指導教員が担当する演習（ゼミナール）に所属し、早い時期から修士論文の作成に向けた指導を受ける。

①通論科目

研究科におけるマネジメントを学ぶための概論的な科目として「マネジメント通論」「リスクマネジメント通論」を開設し、1年次必修とする。

マネジメント通論は、学際的な「マネジメント」という概念について、さまざまな視点から学ぶ。リスクマネジメント通論は、企業経営においても公共経営においても重要なリスクマネジメントを学ぶ。

②特論科目

学生は、特論科目を18単位以上修得することとする。特論科目は、講義形式で行われ、特定領域のテーマに関してその学識を深めるとともに、専門的研究の方法を修得する。各学生の専攻分野に関する授業科目だけでなく、隣接する分野の授業科目を履修することで、マネジメントに関する総合的な理解を深めるとともに、各領域の研究者の視点や研究方法を学ぶ。

③演習科目

演習科目では、問題を発見し分析しながら、自ら解決していく能力を身につけていく。各セメスターにおいて演習科目を受講することで、修士論文の作成を段階的に進めていくことができる。第1セメスターは「マネジメント演習ⅠA」、第2セメスターは「マネジメント演習ⅠB」、第3セメスターは「マネジメント演習ⅡA」、第4セメスターは「マネジメント演習ⅡB」に原則対応している。

2. 履修指導及び研究指導の方法

特論科目の履修は、学習効果の増大を図るため、1学年を春学期・秋学期に分けることにより、第1セメスターから第4セメスターにわたるセメスター制度としている。研究指導と併行して行うマネジメント演習については、形式上4つのセメスターに分かれているが、同一研究指導教員の演習を2年間にわたり履修することを原則とする。

マネジメント専攻の学生の学修は、演習科目を中心に展開する。第1セメスターからマネジメント演習を履修することで、これらを担当する研究指導教員の下、修士論文作成に向けた準備を進める。第1セメスターの履修登録時に修士論文指導教員の申請を行い、研究科委員会の議を経て決定する。学生は、第1から第4セメスターまで修士論文指導教員の担当するマネジメント演習を履修する。また、研究テーマに隣接する分野の演習の履修も可とする。

学生が研究分野の変更をしようとする場合は、研究科委員会の審査及びその議を経て、第3セメスターの履修登録時に指導教員を変更することができることとする。

第1、第2セメスターでは、研究方法や論文の作成手順等の指導を受け、11月に中間報告会を開催する。第3セメスターの7月には、2回目の中間報告会を開催し、そこでの指摘を踏まえて論文の題目を決定する。第4セメスターには、修士課程における研究成果を修士論文として提出する。

特論科目の履修についても、演習担当教員の助言の下、自らの専攻領域に関する科目を中心に系統的な履修を行う。

なお、学芸員や司書といった資格の取得やマネジメントに関する学段落階レベルの知識を必要に応じて補わせるため、学生が学部専門科目を履修できるよう配慮する。ただし、修得した単位は、学部の単位としてのみ認め、修士課程の修了要件としては認めない。

○研究指導（修士論文作成指導）スケジュール

年 次	セメスター	事 項	研究指導関連科目の履修
1年次	第1セメスター	[4月] 指導教員決定	マネジメント演習
	第2セメスター	[11月] 中間報告会	
2年次	第1セメスター	[7月] 中間報告会	
	第2セメスター	[1月] 修士論文提出	

3. 授業科目の履修

授業科目の名称		配当年次	単位数又は時間数		開講期	担当教員	備考
			必修	選択			
通論科目	マネジメント通論	1	2		秋学期	笠原 清志	
	リスクマネジメント通論	1	2		春学期	佐藤 敦	
特論科目	人材マネジメント	1・2		2	春学期	崔 勝渙	
	サステイナブルマネジメント	1・2		2	本年度休講		
	経済予測論	1・2		2	本年度休講		
	キャリアマネジメント	1・2		2	本年度休講		
	グローバルマネジメント	1・2		2	秋学期	細川 淳	
	マーケティング論	1・2		2	秋学期	イシカワ カズ	
	財務マネジメント	1・2		2	本年度休講		
	戦略経営論	1・2		2	秋学期	細川 淳	
	観光経営論	1・2		2	本年度休講		
	企業ファイナンス	1・2		2	本年度休講		
	起業論	1・2		2	春学期	細川 淳	
	ベンチャーマネジメント	1・2		2	春学期	細川 淳	
	ソーシャルビジネス	1・2		2	春学期	細川 淳	
	保健福祉論	1・2		2	本年度休講		
	都市環境論	1・2		2	春学期	村田 あが	
文化マネジメント	1・2		2	本年度休講			
ファッションマネジメント	1・2		2	秋学期	内村 理奈		
演習科目	マネジメント演習ⅠA	1	2		春学期	イシカワ カズ 石塚 正敏 笠原 清志 佐藤 敦 曾田 修司 崔 勝渙 宮崎 正浩 村田 あが 山澤 成康 山田 秀樹	
	マネジメント演習ⅠB	1	2		秋学期	イシカワ カズ 石塚 正敏 笠原 清志 佐藤 敦 曾田 修司 崔 勝渙 宮崎 正浩 村田 あが 山澤 成康 山田 秀樹	
	マネジメント演習ⅡA	2	2		平成28年度開講		
	マネジメント演習ⅡB	2	2				

一 通論科目4単位、特論科目18単位以上、演習科目8単位修得しなければならない。

[平成26年度までの入学者]

1. 教育課程編成の考え方

○カリキュラムポリシー

〈マネジメント研究科〉

修士論文を作成するための知識と技術を教授する演習科目と、各専攻の教育目標を達成するための多様な講義科目や実習科目を配置する。

〈マネジメント専攻〉

1. 「企業・公共マネジメント」、「生活・文化マネジメント」という2つの領域に分け、両者に共通したマネジメントの知見を学ぶために「通論」を配置する。
2. 個々の領域における専門的な研究を深めるために「特論」を設置する。
3. 修士論文を作成するための知識と技術を教授するために「マネジメント演習」を配置する。

マネジメント研究科マネジメント専攻の教育課程では、〈企業・公共マネジメント〉〈生活・文化マネジメント〉の領域をより深く総合的に教育研究すべく、《機会管理という動態的な視点》に基づき、特に《リスクマネジメント》を重視する教育課程を設けることにより、実践的で総合的なマネジメント・マインドが十分に具え、多様な職業領域で指導的役割を果たし、そこで高度なマネジメント能力を実際に発揮することのできる人材を養成する。

その際、マネジメントの実践における様々な局面に即して、マネジメント専攻の教育課程を、

I. 〈企業・公共マネジメント〉

II. 〈生活・文化マネジメント〉

の2つの領域に分け、理論的研究にとどまらず、実際の職場で求められる能力、すなわち、リスクを含む行動の選択状況に取り組むなかで、広く受容され、かつ、現実に応用して確実な効果が認められる提言等具体的な方策を編み出す訓練を施すケーススタディ等を効果的に行う。

マネジメント専攻の学生は、1年次に通論科目を履修し、専攻分野に応じて研究指導教員が担当する演習（ゼミナール）に所属し、指導教員により早い時期から修士論文の作成に向けた指導を受ける。以上の2領域から特論科目をそれぞれ必要な単位を修得し、必修科目のマネジメント演習では、いずれかの領域を重点領域として選択し、研究指導教員により早い時期から修士論文の作成に向けた指導を受ける。

①通論科目

研究科における動態的なマネジメントを学ぶための概論的な科目として「リスクマネジメント通論」を開設し、1年次必修とする。リスクマネジメント通論は、企業経営においても公共経営においても、リスクマネジメントを中心に据えたトータルマネジメントの改革とその的確な実施がますます重要となって来ているなかで、21世紀におけるリスクマネジメントの特色である、従来とは異なったリスク組み込み型やリスク克服型の積極的リスク管理等について動態的な視点から論じていく。

②特論科目

柱になる2領域のうち、〈企業・公共マネジメント〉領域には、「企業経営管理特論」「人事マネジメント特論」「国際経営特論」「環境管理特論」「公共経営管理特論」「リスクマネジメント法制特論」「財務マネジメント特論」「広報マネジメント特論」「経済予測特論」「キャリアデザイン支援特論」「観光経営特論」を開設し、〈生活・文化マネジメント〉領域には、「保健福祉特論」「都市環境特論」「少子高齢化社会特論」「消費者保護特論」「消費生活環境特論」「文化政策特論」「社会参加特論」「文化財環境特論」「博物館経営管理特論」を開設している。

学生は、〈企業・公共マネジメント〉領域から6単位、〈生活・文化マネジメント〉領域から6単位修得し、そのほかに8単位以上修得することとする。特論科目は、特殊な領域のテーマに関し、専門的研究の方法を修得するとともに、その学識を深めるために講義の形式で実施される。各学生の専攻分野に関する授業科目だけでなく、隣接する分野の授業科目を履修することで、マネジメントに関する総合的な理解を

深めるとともに、各領域の研究者の視点や研究方法を学ぶ。

③演習科目

マネジメント専攻の学生は、専攻の柱となる〈企業・公共マネジメント〉〈生活・文化マネジメント〉の各領域のいずれか1つ又は複数を履修する。

2領域のマネジメント演習の特色は次のとおりである。

〈企業・公共マネジメント〉は、企業戦略の転換・再構築（リストラクチャリング）の渦中にある日本企業の実態や、新しい公共経営について、ビジネスモデル、財務、人的資源管理、法規制等の諸側面から事例研究を基本としつつ、問題を発見し分析しながら、自ら解決していく能力を身につけていく。

〈生活・文化マネジメント〉は、我々の生活にとってより身近なリスクマネジメントとして、住環境・地球環境問題・健康・文化などをテーマに、現代社会における様々な問題の所在を明らかにし、今後の対応のあり方を考えていくとともに、問題を発見し、自ら解決していく能力を身につけていく。

2. 履修指導及び研究指導の方法

講義科目の履修は、学習効果の増大を図るため、1学年を春学期・秋学期に分けることにより、第1から第4セメスターにわたるセメスター制度とし、研究指導と併行して行うマネジメント演習については、通年（2セメスター連続）で2年間にわたり履修する。

マネジメント専攻の学生の学修は、演習科目を中心に展開する。第1セメスターからマネジメント演習を履修することで、これらを担当する研究指導教員の下、修士論文作成に向けた準備を進める。

第1セメスターの履修登録時に修士論文指導教員の申請を行い、研究科委員会の議を経て決定する。学生は、第1から第4セメスターまで修士論文指導教員の担当するマネジメント演習を履修する。また、研究テーマに隣接する分野の演習の履修も可とする。

学生が研究領域の変更をしようとする場合は、研究科委員会の審査及びその議を経て、第3セメスターの履修登録時に指導教員を変更することができることとする。

第1・第2セメスターでは、研究方法や論文の作成手順等の指導を受け、11月に、中間報告会を開催する。第3セメスターの7月には、2回目の中間報告会を開催し、そこでの指摘を踏まえて論文の題目を決定する。第4セメスターには、修士課程における研究成果を修士論文として提出する。

講義科目の履修についても、演習担当教員の助言の下、自らの専攻領域に関する科目を中心に系統的な履修を行う。

なお、学芸員や司書といった資格の取得やマネジメントに関する学部段階レベルの知識を必要に応じて補わせるため、学生が学部専門科目を履修できるよう配慮する。ただし、修得した単位は、学部の単位としてのみ認め、修士課程の修了要件としては認めない。

○研究指導（修士論文作成指導）スケジュール

年次	セメスター	事項	研究指導関連科目の履修
1年次	第1セメスター	[4月] 指導教員決定	マネジメント演習
	第2セメスター	[11月] 中間報告会	
2年次	第3セメスター	[7月] 中間報告会	
	第4セメスター	[1月] 修士論文提出	

3. 授業科目の履修

授業科目の名称	配当年次	単位数又は時間数		開講期	担当教員	備考	
		必修	選択				
通論科目	リスクマネジメント通論	1	2		春学期 佐藤 敦	半期2単位必修。	
特論科目	(企業・公共マネジメント領域)						
	企業経営管理特論	1・2		2	秋学期 細川 淳	企業・公共マネジメント領域から6単位、生活・文化マネジメント領域から6単位を含め20単位以上修得する。(必要単位を超えて修得するマネジメント演習を含む)	
	人事マネジメント特論	1・2		2	春学期 崔 勝渙		
	国際経営特論	1・2		2	秋学期 細川 淳		
	環境管理特論	1・2		2	本年度休講		
	公共経営管理特論	1・2		2	春学期 山田 秀樹		
	リスクマネジメント法制特論	1・2		2	秋学期 齋田 統		
	財務マネジメント特論	1・2		2	本年度休講		
	広報マネジメント特論	1・2		2	秋学期 イシカワ カズ		
	経済予測特論	1・2		2	本年度休講		
	キャリアデザイン支援特論	1・2		2	本年度休講		
	観光経営特論	1・2		2	本年度休講		
	(生活・文化マネジメント領域)						
	保健福祉特論	1・2		2	本年度休講		
	都市環境特論	1・2		2	春学期 村田 あが		
	少子高齢化社会特論	1・2		2	本年度休講		
	消費者保護特論	1・2		2	本年度休講		
	消費生活環境特論	1・2		2	秋学期 宮崎 正浩		
	文化政策特論	1・2		2	本年度休講		
	社会参加特論	1・2		2	秋学期 曾田 修司		
文化財環境特論	1・2		2	本年度休講			
博物館経営管理特論	1・2		2	本年度休講			
演習科目	マネジメント演習	1・2	4		通年 企業・公共 イシカワカズ 笠原 清志 佐藤 敦 崔 勝渙 山澤 成康 山田 秀樹 生活・文化 石塚 正敏 曾田 修司 宮崎 正浩 村田 あが	通年4単位、8単位必修。 16単位まで修了要件として認める。ただし、1年に8単位を超えて履修することができない。	

修了要件

大学院に2年（2年以外の標準修業年限を定める研究科、専攻又は学生の履修上の区分にあっては、当該標準修業年限）以上在学し、30単位以上（内訳は下記のとおり）を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、本大学院の行う修士論文の審査及び試験に合格することとする。

マネジメント専攻修了要件単位数内訳

通論科目2単位、特論科目20単位以上修得すること。ただし、その20単位には、企業・公共マネジメント領域から6単位、生活・文化マネジメント領域から6単位を含めること。

演習科目は、2年間にわたり履修し、8単位以上修得すること。